

鎌倉殿・13人の重臣ゆかりの地

鎌倉殿とそれを支えた北条義時をはじめとする13人の重臣ゆかりの地をご紹介します。

ほっけどうあと
法華堂跡（北条義時墓）
西御門・二階堂エリア

ゆかりの人物：北条義時・三浦義澄・大江広元



北条義時の没後、供養のために建てられた墳墓堂（法華堂）の推定地です。平成17年（2005年）の発掘調査で堂跡の遺構が発見されました。堂は鎌倉時代後期には廃絶したとみられています。

背後には、宝治合戦で敗れた三浦一族にゆかりがあると伝わり今も供養されている「やぐら」や、江戸時代以降に整備された大江広元等の墓所があります。

鎌倉市西御門2-757

ほっけどうあと
法華堂跡（源頼朝墓）
西御門・二階堂エリア

ゆかりの人物：源頼朝

源頼朝の墳墓堂（法華堂）跡です。頼朝の生前に持仏堂として建てられ、没後に法華堂と呼ばれるようになりました。



現在頼朝墓のある平場がその跡地であると考えられています。武家の精神的な抛り所として鎌倉幕府滅亡後も維持されました。

鎌倉市西御門2-687

らいこうじ
来迎寺（西御門）
西御門・二階堂エリア

ゆかりの人物：源頼朝



江戸時代、源頼朝の法華堂に安置されていた地蔵菩薩・如意輪観音・跋陀婆羅尊者の三軀等を祀ります。地蔵菩薩像はもと報恩寺の本尊で、後に太平寺・法華

堂へと移されました。

来迎寺の近隣にあった太平寺は、頼朝が自らを助けた池禪尼の姪を開山として建立したと伝わり、その客殿（仏殿とも）は円覚寺に移され、舍利殿として現存します。

鎌倉市西御門1-11-1

かくおんじ
覚園寺
西御門・二階堂エリア

ゆかりの人物：北条義時



吾妻鏡に記された北条義時の危機を救った霊験をもつ戌神将を祀った大倉薬師堂が、覚園寺の前身とされています。

現在の薬師堂に安置されている十二神将は室町時代のものですが、鎌倉北条氏の信仰を今日まで受け継ぐ寺院の一つです。

鎌倉市二階堂421

ようふくじ
永福寺跡
西御門・二階堂エリア

ゆかりの人物：源頼朝・二階堂行政
源頼朝が奥州合戦で亡くなった人々を供養するために建立した寺院の跡です。

発掘調査により、本堂・阿弥陀堂・薬師堂が複廊でつながり、池を臨む浄土式庭園をそなえた伽藍であったとわかり、建物の基壇、池等が復元整備されています。

本堂は二階堂とも呼ばれ、地名にもなっています。近辺に居を構えた藤原行政は二階堂氏を称しました。



鎌倉市二階堂209

みょうおういん
明王院
十二所エリア

ゆかりの人物：九条頼経（三寅）



3代將軍源実朝が暗殺されると、北条政子、北条義時は頼朝の遠縁にあたる九条頼経を京都から鎌倉に迎え、將軍に擁立しました。

当寺は4代將軍頼経が御願寺として建

立した寺院です。五体の明王を祀ることから五大堂とも称されました。

近隣に大江広元を祀る大江稻荷があり、観音堂にはその御神体も安置されています。

📍 鎌倉市十二所 32

つるがおかはちまんぐう
鶴岡八幡宮

雪ノ下エリア

🌟 ゆかりの人物：源頼朝・源実朝・北条義時



源頼義が石清水八幡宮を由比郷鶴岡（現在の由比若宮）に勧請したことに由来します。治承4年（1180年）に源頼朝が現在地に遷し、放生会や流鏝馬を奉納しました。

以来幕府の公的行事の場となった鶴岡八幡宮は、源氏の氏神・幕府の守護社として御家人等の崇敬を集めました。幕府滅亡後も、後続する足利、後北条、徳川などから武門の守護神として信仰されました。

📍 鎌倉市雪ノ下 2-1-31

おおくらぼくふあと
大倉幕府跡

雪ノ下エリア

🌟 ゆかりの人物：源頼朝・13人全員



源頼朝が大倉に御所を構え、幕府を開いたことから、便宜上、大倉幕府といえます。頼朝の御所の周囲には、有力御家人の宿所や幕府の役所が置かれていました。江戸時代の地誌から推定して、現在の清泉小学校の敷地を中心とする地域にあったと考えられています。

📍 鎌倉市雪ノ下 3丁目

むりょうじゆいんあと
無量寿院跡

扇ガ谷エリア

🌟 ゆかりの人物：安達盛長



鎌倉歴史文化交流館が建つ谷は無量寺谷と呼ばれ、近辺には安達氏の菩提

寺・無量寿院や甘縄の邸宅があったと考えられています。敷地内の発掘調査では鎌倉時代後期の池の跡や礎石が見つかり、安達氏に關係する遺構の可能性が指摘されています。

📍 鎌倉市扇ガ谷 1-5-1

じゆふくじ
寿福寺

扇ガ谷エリア

🌟 ゆかりの人物：源頼朝・北条政子・源実朝



当寺の一带には源頼朝の父・義朝の館があったといわれ、その後、北条政子が明庵栄西を開山として伽藍を建立しました（現在、拝観は中門までです）。裏山の墓地にあるやぐらには、源実朝、政子の墓と伝わる五輪塔があります。

📍 鎌倉市扇ガ谷 1-17-7

ほうかいじ
宝戒寺

小町・大町エリア

🌟 ゆかりの人物：北条義時・歴代北条得宗家

北条義時が屋敷を構えて以来、代々北条得宗家の邸宅があった場所に建てられた寺院です。

幕府滅亡後、北条一門の菩提を弔うために後醍醐天皇が足利尊氏に命じて建立しました。



📍 鎌倉市小町 3-5-22

みょうほんじ
妙本寺

小町・大町エリア

🌟 ゆかりの人物：比企能員・竹御所



妙本寺がある比企谷は、比企一族の屋敷跡とされます。境内には源頼朝の息子・一幡の袖塚や比企一族の墓と伝えられる石塔など、一族の悲劇が伝わります。また、付近には頼朝の娘で4代将軍九条頼経正室の竹御所の墓所があります。

比企能員の子・能本が後に日蓮の弟子となり、日蓮と一族のために堂を建てたのが妙本寺の始まりといわれています。

鎌倉市大町 1-15-1

来迎寺 (材木座)

材木座エリア

ゆかりの人物：三浦一族



源頼朝が三浦義澄の父、三浦義明の冥福を祈って建立した能蔵寺があった場所とされています。本尊阿弥陀三尊像は三浦義明の守護仏と伝わります。

敷地内には三浦一族や家臣の墓と伝わる五輪塔があります。

鎌倉市材木座 2-9-19

和田塚

由比ガ浜エリア

ゆかりの人物：和田義盛



北条義時と和田義盛の武力衝突(和田合戦)の結果、和田一族敗死の「屍」を埋葬した塚として、伝承されています。

和田塚に近い由比ガ浜一帯は、和田合戦の主戦場となった場所です。明治時代の道路工事で埴輪や多くの人骨が掘り出されました。

鎌倉市由比ガ浜 2 丁目

御霊神社 (坂ノ下) 由比ガ浜エリア

ゆかりの人物：梶原景時

鎌倉党の祖・鎌倉権五郎景正公を祀ります。鎌倉党は鎌倉郡などを拠点とした武士団で、梶原・大庭・鎌倉・長江・長尾氏等がいました。

当社は源頼朝が鎌倉に入る前から鎮座していたと伝えられています。景正公命日の9月18日には、鶴岡八幡宮の放生会がかつて行われていた舞楽面の行列に倣った面掛行列が行われています。



鎌倉市坂ノ下 4-9

極楽寺

由比ガ浜エリア

ゆかりの人物：北条義時



北条義時と姫の前の息子・重時の山荘に造られた寺院で、重時の息子・長時らによって律院となりました。

周辺はもと三浦氏の所領であったとする説もあり、後に重時がこの地を獲得し、山荘を建てました。

鎌倉市極楽寺 3-6-7

満福寺

腰越エリア

ゆかりの人物：源義経



寺伝では天平16年(744年)行基の創建で、承安年中(1171~75年)に高範が中興したといわれています。

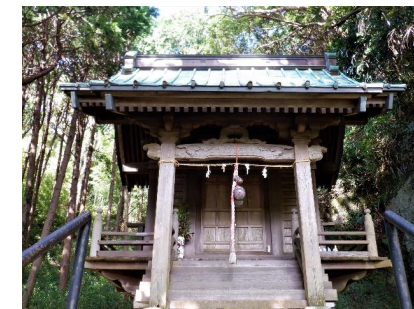
当地は源頼朝の不興を被った源義経が逗留した地と伝えられています。義経逗留伝説は江戸時代の資料に見え、弁慶筆といわれる腰越状の写などが残ります。

鎌倉市腰越 2-4-8

御霊神社 (梶原)

深沢エリア

ゆかりの人物：梶原景時



鎌倉党の祖・鎌倉権五郎景正公を祀ります。鎌倉党は鎌倉郡などを拠点とした武士団で、梶原・大庭・鎌倉・長江・長尾氏等がいました。鎌倉党の本拠地には景正公を祀る御霊神社があり、それぞれに鎌倉党の伝承が残ります。

梶原地域は、鎌倉党の一流・梶原氏出自の地とされ、梶原景時やその一族に関する話が伝わります。

鎌倉市梶原 1-12-27

★ ゆかりの人物：北条義時・梶原景時



北条義時以来、北条得宗家領となった山内荘に、5代執権北条時頼が建立した禅宗寺院です。山内荘は土肥氏の所領でしたが、和田合戦に与したことで没収され、義時に与えられました。以後荘内には、北条氏によって常楽寺・建長寺・円覚寺など多くの寺院が造られました。

建長寺の三門では毎年7月15日に梶原景時の菩提供養のための施餓鬼会が行われています。

📍 鎌倉市山ノ内8

★ ゆかりの人物：北条義時・源実朝

北条義時以来、北条得宗家領となった山内荘に、8代執権北条時宗が建立した禅宗寺院です。

国宝の舍利殿には、源実朝が宋から請来し、もと大慈寺に安置されていたという仏舎利が祀られています。鎌倉時代後期に建てられた舍利殿は火災で焼失。現

在の舍利殿は、北条氏康が太平寺客殿（仏殿とも）を移築したものです。※舍利殿は常時公開されていません。



📍 鎌倉市山ノ内409

★ ゆかりの人物：北条泰時・源義高・大姫



北条義時の息子・泰時が妻の母の供養のために建立した寺院で、泰時の年忌供養も行われています。

また「粟船山常楽寺略記」は北条政子が娘大姫と許嫁の源（木曾）義高の菩提を弔うため当寺を創建したとし、裏山には義高の首塚といわれる塚があります。

📍 鎌倉市大船 5-8-29

鎌倉殿・13人の重臣 関連施設

鎌倉殿の13人 大河ドラマ館

雪ノ下エリア



《2022年3月1日 OPEN》

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送に合わせ、大河ドラマの世界観を体感していただける大河ドラマ館を鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム内にオープンします。

📍 鎌倉市雪ノ下 2-1-53 [鶴岡八幡宮境内]

鎌倉国宝館

雪ノ下エリア



昭和3年に開館した歴史・美術の博物館で、鎌倉市域、近隣の社寺に伝来する彫刻・絵画など様々な文化財を展示しています。2022年は鎌倉殿と13人の重臣に関連する展覧会の開催を予定しています。

📍 鎌倉市雪ノ下 2-1-1 [鶴岡八幡宮境内]

鎌倉歴史文化交流館

扇ガ谷エリア



鎌倉の通史や出土品を紹介する博物館。2022年は北条義時とその時代に関連する展覧会を年4回開催する予定です。無量寺谷と呼ばれるこの谷には13人の重臣の1人、安達氏の菩提寺などがあったと考えられています。

📍 鎌倉市扇ガ谷 1-5-1

2022年 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ストーリー

平家隆盛の世、北条義時は伊豆の弱小豪族の次男坊に過ぎなかった。だが流罪人・源頼朝と姉・政子の結婚をきっかけに、運命の歯車は回り始める。

1180年、頼朝は関東武士団を結集し平家に反旗を翻した。北条一門はこの無謀な大博打に乗った。頼朝第一の側近となった義時は決死の政治工作を行い、遂には平家一門を打ち破る。

幕府を開き将軍となった頼朝。だがその絶頂のとき、彼は謎の死を遂げた。偉大な父を超えようともがき苦しむ二代将軍・頼家。“飾り”に徹して命をつなごうとする三代将軍・実朝。将軍の首は義時と御家人たちの間のパワーゲームの中で挿げ替えられていく。

義時は、二人の将軍の叔父として懸命に幕府の舵を取る。源氏の正統が途絶えたとき、北条氏は幕府の頂点にいた。都では後鳥羽上皇が義時討伐の兵を挙げる。武家政権の命運を賭け、義時は最後の決戦に挑んだ――。

「鎌倉殿」とは鎌倉幕府将軍のこと。頼朝の天下取りは十三人の家臣団が支えていた。頼朝の死後、彼らは激しい内部抗争を繰り広げるが、その中で最後まで生き残り、遂に権力を手中に収めたのが、十三人中もっとも若かった北条義時である。

【NHK ホームページより】

放送予定：2022年1月～12月

鎌倉殿を支えた13人の重臣ガイドブック

令和3年(2021年)9月 第1版

令和3年(2021年)11月 第2版

発行：鎌倉市(神奈川県鎌倉市御成町18-10)

監修：鎌倉歴史文化交流館(神奈川県鎌倉市扇ガ谷1-5-1)



<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/taiga/guidebook.html>

このガイドブックは、鎌倉市のホームページから無料でダウンロードできます。